

資料 1

京都市 障害児保育状況シート基本項目集

記載方法と留意点

項目毎に対象児の状況を、
具体的に記載して下さい。

幼保総合支援室

目次

1	項目一覧	0歳児	1
		1・2歳児	2
		3・4・5歳児	3
2	基本項目	記載方法と留意点	
		0歳児	4
		1・2歳児	9
		3・4・5歳児	20

項目一覧

0歳児

運動面	0 首はすわっていない 1 定頸（立てて抱いても首がふらふらしない） 2 寝返りができる（仰臥位→腹臥位） 3 お座りができる（支えなしで10秒以上座れる） 4 つかまり立ちができる 5 一人で3歩以上歩く
精神面	0 反応なし 1 あやすと顔をみて笑う 2 喃語を言う 3 人見知りをする 4 バイバイと手を振る 5 「マンマ」「ブーブー」などの片言を言う
食事	0 ほとんど飲めない 1 飲む力が弱く上手く飲めない 2 しっかり飲める 3 離乳食を開始し食べることができる 4 手づかみで食べる 5 スプーンを持とうとする
視覚	0 視覚に問題があるように思われる 1 見えている
聴覚	0 聴こえに問題があるように思われる 1 聴こえている
てんかん発作	0 常時おきる 1 月に4～5回 2 月に1～2回 3 年に5～6回 4 服薬により抑止 5 服薬の必要なし

1・2歳児

運動機能	上肢	0 手が使えない	下肢	0 歩けない	
		1 物をつかもうとするが、うまくできない		1 一人で歩ける（5歩以上歩ける）	
		2 親指と人差し指を向き合わせ、物をつまんで容器にいれる		2 一人で走れる	
		3 積み木を2個積み上げる		3 手すりにつかまって階段の昇降ができる	
		4 なぐり書きをする		4 両足で跳ぶ（両足が揃っていないてもよい）	
		5 円や直線の模写ができる		5 足を交互に出て階段を上る	
言語		0 哺語が出ない			
		1 哺語がさかん			
		2 「マンマ」などの片言（3語以上）を言う（もしくは簡単な指示に従う）			
		3 2語文を言う（「おうち、かえる」「ワンワン、来た」など）			
		4 3語文を言う（会話として通じにくいときもある）			
		5 簡単な会話ができる			
社会性		0 人に関心を示さない（視線が合わない、表情がない）			
		1 人への興味はあまりないが、集団の中にはいる			
		2 自分から他児に興味を示し中に入っていく			
		3 大人の援助により少し集団遊びができる			
		4 子ども同士追いかけっこをして遊ぶ			
		5 簡単なおもちゃの貸し借りができる（ルールがわかるようになる）			
設定保育・行事場面		0 人や物への関心がなく、部屋から出て行く			
		1 人への関心はないが物への関心を示すので他児のじゃまをする。部屋から出て行くことが多い			
		2 人への関心はあまりないが部屋の中にはいる			
		3 人や物への関心はあるが、指示の理解ができず行動を共にするなど個別対応が必要			
		4 集団での指示が理解できず、言語での一対一の対応が必要			
		5 他の児童と大差はない			
自由遊び場面		0 所外へ飛び出す危険がある（自分で鍵を開けて出ていくなど）			
		1 常時ついていなければならない			
		2 常時気を配らなければならない			
		3 時々声をかけなければならない			
		4 最初に指示を与える程度でよい			
		5 他の児童と大差はない			
食事		0 全面介助（自分で食べられない）			
		1 手づかみで食べる			
		2 コップで飲む			
		3 スプーンを持ち、すくって食べようとする			
		4 スプーンを使用して一人で食べる			
		5 はしを使用して一人で食べる			
排泄		0 おむつを使用（でるのがわからない）			
		1 尿が出てしまってから知らせる（出たのはわかる）			
		2 便が出てしまってから知らせる			
		3 便が出る前に知らせる			
		4 尿が出る前に知らせる（個別の介助が必要）			
		5 失敗もあるが、促しや保育の流れで行くことができる（排尿時の介助不要）			
着脱		0 すべて介助（着脱に抵抗する）			
		1 衣服を着るとき静かにしているが協力しない（着脱には抵抗しない）			
		2 衣服を着るとき手足を出して協力する（着脱協力的）			
		3 一人でパンツ・ズボンは脱げる			
		4 上着を脱ぐことができる			
		5 前後はわからないが服を着ようとする			
視覚		0 視覚に問題があるように思われる	てんかん発作	0 常時おきる	
		1 見えている		1 月に4～5回	
聴覚		0 聴こえに問題があるように思われる		2 月に1～2回	
		1 聴こえている		3 年に5～6回	
				4 服薬により抑止	
				5 服薬の必要なし	

3・4・5歳児

運動機能	上肢	0 手が使えない	下肢	0 歩けない
		1 物をつまんで容器に入れる		1 一人で歩ける
		2 なぐり書きをする		2 一人で走れる
		3 クレヨンで丸が書ける（始点と末端がやや交差してもよい）		3 両足跳びができる (両足が揃っていないなくてもよい)
		4 折り紙を折ることができる（一回折り目をつけられる）		4 ケンケンができる（片足連続3回以上）
		5 ハサミが使える（連続切りができる）		5 スキップができる
言語		0 話せない（言葉の理解も悪い）		
		1 話せないが相手の言う事はわかる		
		2 単語のみ（3語以上）		
		3 二語文で話す（「おうち、かえる」「ワンワン、来た」など）		
		4 三語文で話すが助詞、接続詞がまだ使えない		
		5 助詞も入れて文章で話し、会話のキャッチボールができる		
自己統制		0 全く指示に従えず、目が離せない		
		1 指示を与えてもほとんど出来ない		
		2 繰り返し指示を与えて、出来るときと出来ない時がある		
		3 繰り返し指示を与えると、指示どおり出る		
		4 少しの補足だけで指示どおりほぼできる		
		5 指示どおり行動できる		
設定保育・行事場面		0 人や物への関心がなく、部屋から出て行く		
		1 人への関心はないが物への関心を示すので他児のじやまをする。部屋から出て行くことが多い		
		2 人への関心はあまりないが部屋の中にはいる		
		3 人や物への関心はあるが、指示の理解ができず行動を共にするなど個別対応が必要		
		4 集団での指示が理解できず、言語での一対一の対応が必要		
		5 他の児童と大差はない		
自由遊び場面		0 所外へ飛び出す危険がある（自分で鍵を開けて出ていくなど）		
		1 常時ついていなければならない		
		2 常時気を配らなければならない		
		3 時々声をかけなければならない		
		4 最初に指示を与える程度でよい		
		5 他の児童と大差はない		
食事		0 全面介助（自分で食べられない）		
		1 コップで飲む（はし、スプーンは使えない）		
		2 スプーンを使用して食べる（よくこぼす）		
		3 スプーンを使用して食べる（おおむね一人で食べる）		
		4 スプーンかはしを使用して一人で食べる		
		5 はしを使用して一人で食べる		
排泄		0 おむつを使用（でるのがわからない）		
		1 出てしまつてから知らせる（出たのはわかる）		
		2 便意や尿意を知らせる（出る前にわかる）		
		3 自分でトイレに行くが、大便（または小便）の後始末ができない		
		4 大小便とも自立しているが、時々失敗する（だいたい自立）		
		5 大小便とも自立している（完全自立）		
着脱		0 すべて介助（着脱に抵抗する）		
		1 衣服を着るとき静かにしているが協力しない（着脱には抵抗しない）		
		2 衣服を着るとき手足を出して協力する（着脱協力的）		
		3 一人で脱げるが着ることはできない（自分でしようとする）		
		4 できるときと、できないときがある（自分でするが前後がわからない）		
		5 着脱自由（問題なし）		
視覚		0 全く見えない	聴覚	0 耳元で大きな声で話しても聴こえない
		1 明るい方に顔を向ける		1 大きな声がやっと聴きとれる
		2 顔前20cm位で手の動きがわかる		2 普通の声がやっと聴きとれる
		3 顔前20cm位で指の数がわかる		3 普通の声の会話は聴きとれるが、小さい声は聴きとれない
		4 2m位離れたところで人の区別ができる		4 小さい声が聴こえたり聴きとれなかったりする
		5 普通に見える		5 普通に聴こえる
てんかん発作		0 常時おきる		
		1 月に4～5回		
		2 月に1～2回		
		3 年に5～6回		
		4 服薬により抑止		
		5 服薬の必要なし		

0歳児

運動面

- 0 首はすわっていない
- 1 定頸（立てて抱いても首がふらふらしない）
- 2 寝返りができる（仰臥位→腹臥位）
- 3 お座りができる（支えなしで10秒以上座れる）
- 4 つかまり立ちができる
- 5 一人で3歩以上歩く

設問主旨：運動機能（粗大運動）の発達状況を評価する。

0 首はすわっていない

全くすわらず、グラグラしている、時々ガクッとなるものなど、その状態を具体的に記載する。

1 定頸（立てて抱いても首がふらふらしない）

しっかりと正中でさえ、前後左右にぐらつかない。身体の軸上に保持している。前後左右に傾けると、頭部を立て直そうとする。状態を具体的に記載する。

2 寝返りができる（仰臥位→腹臥位）

仰臥位から腹臥位に寝返ることができる。どちらの側でもよい。

片方のみの寝返りや腹臥位から仰臥位に寝返るのみなど、その状況も記載する。

3 お座りができる（支えなしで10秒以上座れる）

支えがなくてもまっすぐに座り、10秒程度保持できる。徐々に前傾姿勢になってもよい。

手をついてしている場合は「できない」とする。

すぐに這い這いをしてしまう場合もその状況を具体的に記載する。

4 つかまり立ちができる

座位やはいはいの姿勢から前にあるものにつかまって立つ。つかまってから立ち上がるまでに時間がかかるてもよい。立とうとしてもできず、膝立ちの姿勢までの場合は「できない」とし、具体的な状況を記載する。

5 一人で3歩以上歩く

3歩以上続けて歩ける。室内、戸外（靴の有無）は問わない。

1、2歩で座り込む、転倒してしまう場合は「できない」とし、その具体的な状況を記載する。

0歳児

精神面

- 0 反応なし
- 1 あやすと顔をみて笑う
- 2 嘸語を言う
- 3 人見知りをする
- 4 バイバイと手を振る
- 5 「マンマ」「ブーブー」などの片言を言う

設問主旨：対人および言語の発達状況を評価する。

0 反応なし

あやしたり、話しかけたりしても反応がない。または、乏しい。

反応の状況を具体的に記載する。

1 あやすと顔をみて笑う

あやすとそれに反応して微笑む。笑い声をたてなくてもよい。

あやされたときの反応を具体的に記載する。

2 嘐語を言う

機嫌のよいときいろいろな声を出す。具体的な状況を記載する。

3 人見知りをする

見慣れない人の顔をじっと見て、表情が変わったり、泣いたりする。

よく知っている人（担当保育士、母親など）と知らない人の区別がついているようであればよい。

状況を具体的に記載する。

4 バイバイと手を振る

「バイバイ」と言うと手を振る。他に「イヤイヤ」「アワアワ」など、大人が言う動作をする。

「バイバイ」でなくてもよい。状況を具体的に記載する。

5 「マンマ」「ブーブー」などの片言を言う

具体的なものと対応した語が表出している。

片言の表出状況や内容を具体的に記載する。

「オウム返し」だけの場合や、対応していない言葉である場合は不可とする。

0歳児

食事

- 0 ほとんど飲めない
- 1 飲む力が弱く上手く飲めない
- 2 しっかり飲める
- 3 離乳食を開始し食べることができる
- 4 手づかみで食べる
- 5 スプーンを持とうとする

定義：食事動作の発達状況を評価する。

0 ほとんど飲めない

哺乳瓶から、哺乳することができず、経管栄養などを行っている。

原因や具体的な状況を記載する。

1 飲む力が弱く上手く飲めない

哺乳瓶から飲むことはできるが吸啜力が弱く、哺乳に時間がかかる。

哺乳瓶を嫌がって飲まない場合は含めない。体重増加不良であればその旨を記載する。

2 しっかり飲める

哺乳瓶からあまり時間をかけすことなく飲むことができる。

哺乳瓶は嫌がるが母乳であればしっかり飲める場合は具体的な状況を記載する。

3 離乳食を開始し食べることができる

ドロドロした食物をスプーンで与えると食べる。離乳食の形態や摂食の様子を具体的に記載する。

嫌がって食べない場合や口からこぼれてしまう場合も状況を具体的に記載する。

4 手づかみで食べる

食べものを持って自分で食べる。食べものを持たせると食べる場合でもよい。

5 スプーンを持とうとする

スプーンを見ると自分で持って食べようとする。食べさせている途中、自分で持とうとする。

スプーンを食事に使うものとしての認知ができていればよい。

スプーンへの興味や使おうとする様子を具体的に記載する。

0歳児

視覚

- 0 視覚に問題があるように思われる
- 1 見えている

設問主旨：発達障害等ではなく、視力の程度をみる。

眼鏡やコンタクトレンズの場合は装用した状態での視機能を記入する。

0 視覚に問題があるように思われる

保育上どのような介助が必要であるかを記載する。
医療機関への受診があれば、その結果を記載する。

1 見えている

視力に問題なし。

聴覚

- 0 聴こえに問題があるように思われる
- 1 聴こえている

設問主旨：認知等の問題ではなく、聴力の程度をみる。

補聴器を使用している場合は装用した状態での聴能を記入する。

0 聴こえに問題があるように思われる

保育上どのような介助が必要であるかを記載する。
医療機関への受診があれば、その結果を記載する。

1 聴こえている

聴力に問題なし。

0歳児

てんかん発作

- 0 常時おきる
- 1 月に4～5回
- 2 月に1～2回
- 3 年に5～6回
- 4 服薬により抑止
- 5 服薬の必要なし

設問主旨：てんかんの有無と発作の頻度や程度をみる。

0 常時おきる

小さな発作を含め、月に4～5回以上おきる。

どのような発作がどれくらいの頻度で起こるかを記載する。

医療機関への受診状況を記載する。

1 月に4～5回

小さな発作を含め、月に4～5回程度おきる。

どのような発作がどれくらいの頻度で起こるかを記載する。

医療機関への受診状況を記載する。

2 月に1～2回

小さな発作を含め、月に1～2回以上おきる。

どのような発作がどれくらいの頻度で起こるかを記載する。

医療機関への受診状況を記載する。

3 年に5～6回

小さな発作を含め、年に5～6回以上おきる。

どのような発作がどれくらいの頻度で起こるかを記載する。

医療機関への受診状況を記載する。

4 服薬により抑止

自宅、または保育園（所）にて服薬することで、発作が抑止されている。

医療機関への受診状況を記載する。

5 服薬の必要なし

てんかん発作を起こすことはなく、服薬の必要もない。

1・2歳児

運動面 上肢

- 0 手が使えない
- 1 物をつかもうとするが、うまくできない
- 2 親指と人差し指を向き合わせ、物をつまんで容器にいれる
- 3 積み木を2個積み上げる
- 4 なぐり書きをする
- 5 円や直線の模写ができる

設問主旨：上肢の巧緻性（微細運動）や道具への興味、使用能力の発達状況を評価する。

0 手が使えない

上肢の麻痺や欠損などにより手が使えない。手の使用に興味がない。

使えない理由や原因、状況について具体的に記載する。

1 物をつかもうとするが、うまくできない

見たものに手を伸ばして手をかけたが、ずり落としてしまう。

手を伸ばしてつかみ、すぐに落してしまう場合は「できる」とする。つかみ方は問わない。

2 親指と人差し指を向き合わせ、物をつまんで容器にいれる

指が対向しておらず、挟み持ちになっていたり、2指以外（3指持ちなど）の場合や
つまむのみで容器に入れることができない場合は「できない」とし、状況を具体的に記載する。

3 積み木を2個積み上げる

1つあるうえに、もう1つを重ねられる。積み木を持てない、積む意図がない、積木から手が
離れない、積み木を離したとき落ちてしまうときは「できない」とし、具体的な状況を記載する。
また、積木がなく他の玩具を積む場合も状況を具体的に記載する。

4 なぐり書きをする

筆記具（鉛筆、クレヨン、マジックなど）を紙に打ちつけるだけでなく、筆記具を紙の上に
走らせて何かを描く。持ち方は問わない。描かない場合は、描けない状況を具体的に記載する。

例）筆記具が持てない・なぐり書きに興味がない・打ちつけてしまうなど

5 円や直線の模写ができる

大人が線や円形またはらせん状の円錯画を描いて見せると、真似て描く。どちらかしかできない
ときは具体的な状況を記載する。自分で好きなように描いており、真似ようとしない場合は
「できない」とし、具体的な状況を記載する。

1・2歳児

運動面 下肢

- 0 歩けない
- 1 一人で歩ける（5歩以上歩ける）
- 2 一人で走れる
- 3 手すりにつかまって階段の昇降ができる
- 4 両足で跳ぶ（両足が揃っていなくてもよい）
- 5 足を交互に出して階段を上る

設問主旨：移動能力や体のバランスなど下肢の粗大運動の発達状況を評価する。

装具などを装着している場合は、装着している状態で判断する。

0 歩けない

できない原因や理由、状況について具体的に記載する。

例) 立位保持の有無や立位での移動状況など

つかまり立ち・つたい歩き・支え歩き（両手・片手）・一人立ち

1 一人で歩ける（5歩以上歩ける）

5歩程度、続けて歩ける。室内、戸外（靴の有無）は問わない。

2、3歩で座り込む、転倒してしまう場合は「できない」とする。具体的状況を記載する。

2 一人で走れる

足元がかなりしっかりして、走ることができれば「できる」とする。速度が遅くてもよい。

できない場合は具体的状況を記載する。

3 手すりにつかまって階段の昇降ができる

手すりにつかまつたり、片手をひいたりすれば、階段を上り降りすることができる。

状況を具体的に記載する。

4 両足で跳ぶ（両足が揃っていなくてもよい）

その場で両足跳びができる。このとき、足がそろわなかつたり、少しどちらかの足が遅れたりしてもよい。状況を具体的に記載する。

5 足を交互に出して階段を上る

手すりなどにつかまらず、交互に足を出し、各段を片足で踏んで階段を上れる。

上ることができればよい。階段は、保育園（所）で通常利用している高さ程度のものとする。

状況を具体的に記載する。

1・2歳児

言語

- 0 哺語が出ない
- 1 哺語がさかん
- 2 「マンマ」などの片言（3語以上）を言う（もしくは簡単な指示に従う）
- 3 二語文を言う（「おうち、かえる」「ワンワン、来た」）など
- 4 三語文を言う（会話として通じにくいときもある）
- 5 簡単な会話ができる

設問主旨：言語による意志疎通・コミュニケーション能力を評価する。

0 哺語が出ない

発声そのものがないのか、哺語となっていないのか、頻度が少ないか、理解はどの程度できているか、その他具体的な状況を記載する。

1 哺語がさかん

自発的に「マンマンマン…」などと言う。
表出している哺語や表出している場面などを具体的に記載する。

2 「マンマ」などの片言（3語以上）を言う（もしくは簡単な指示に従う）

具体的なものと対応した語がはつきりと結びついていること（3語以上）。「オウム返し」は不可。
または、はつきりとした単語は出ていなくても「～もっていらっしゃい」「～にあげなさい」などの簡単ないいつけを理解し、言われた通りにできればよい。
状況具体的に記載する。

3 二語文を言う（「おうち、かえる」「ワンワン、来た」など）

一語文の段階を過ぎて、単語を2つつなげて話す。
パターンでしか話さない、発音不明瞭、独特な話し方をするなど、具体的な状況を記載する。

4 三語文を言う（会話として通じにくいときもある）

会話としては通じにくいこともあるが、やりとりしようとしている。
接続詞が使えない、パターンでしか話さない、発音不明瞭、独特な話し方をするなど、具体的な状況を記載する。

5 簡単な会話ができる

一方的ではなく、簡単な会話でのやりとりができる。具体的な状況を記載する。

1・2歳児

社会性

- 0 人に関心を示さない（視線が合わない、表情がない）
- 1 人への関心はあまりないが、集団の中にはいる
- 2 自分から他児に興味を示し中に入していく
- 3 大人の援助により少し集団遊びができる
- 4 子ども同士追いかけっこをして遊ぶ
- 5 簡単なおもちゃの貸し借りができる（ルールがわかるようになる）

設問主旨：人への関心の有無や程度を評価する。

集団活動への参加状況をみる。

0 人に関心を示さない（視線が合わない、表情がない）

話しかけても目が合わない、反応がないなど具体的な状況を記載する。

1 人への関心はあまりないが、集団の中にはいる

設定保育に参加できるか、他児との関わりがあるかどうかは別として、その場にいることができる。具体的な状況を記載する。

2 自分から他児に興味を示し中に入していく

他児に興味をもって、自分から近づいていくことがある。

他児への興味の様子や関わり方など具体的な状況を記載する。

3 大人の援助により少し集団遊びができる

保育士が入ることで、少しの間、他児と遊ぶことができる。

遊びの内容や保育士の支援など具体的な状況を記載する。

4 子ども同士追いかけっこをして遊ぶ

子ども同士で遊ぶことがみられる。追いかけっこでなくてもよい。

遊んでいる状況を具体的に記載する。

5 簡単なおもちゃの貸し借りができる（ルールがわかるようになる）

他児とのやりとりができるようになってきている。

具体的な状況を記載する。

1・2歳児

設定保育・行事場面

- 0 人や物への関心がなく、部屋から出て行く
- 1 人への関心はないが物への関心を示すので他児のじゃまをする。部屋から出て行くことが多い
- 2 人への関心はあまりないが部屋の中にはいる
- 3 人や物への関心はあるが、指示の理解ができず行動を共にするなど個別対応が必要
- 4 集団での指示が理解できず、言語での一対一の対応が必要
- 5 他の児童と大差はない

設問主旨：集団保育での行動および対人関係の発達状況、保育における困難性を評価する。

自力での移動が困難な場合は、他者への関心や指示の理解状況で判断する。

日によって状況が異なる場合は、頻度の多い状況を選択し、その旨を記載する。

0 人や物への関心がなく、部屋から出て行く

大人、子どもに関心がなく、遊びの内容や玩具などにも興味を示すことがない。

いつでも部屋の外にでてしまう。関心の状況や部屋から出していく頻度など具体的な状況を記載する。

1 人への関心はないが物への関心を示すので他児のじゃまをする。部屋から出て行くことが多い

人への関心がなく、一緒に行動することは意識していないが、持っているものには興味を示し、取り上げようとするなど他児のじゃまをする。働きかけをしても、頻回に保育室から出て行ってしまう。具体的な状況や頻度、働きかけの内容などを記載する。

2 人への関心はあまりないが部屋の中にはいる

人に関心をあまり示さないものの、働きかけをすれば部屋の中にいることができる。

具体的な状況や働きかけの内容などを記載する。

3 人や物への関心はあるが、指示の理解ができず行動を共にするなど個別対応が必要

言語の指示のみでは理解できないため、大人が一対一で一緒にすることが必要である。

指示内容やどの程度一緒にすることでできるかを具体的に記載する。

4 集団での指示が理解できず、言語での一対一の対応が必要

一対一であれば言語での指示を理解できる。

指示内容やどの程度の言語指示でできるかを具体的に記載する。

5 他の児童と大差はない

集団の指示でほぼ活動できる。

何らかの支援が必要な場合は具体的に記載する。

1・2歳児

自由遊び場面

- 0 所外へ飛び出す危険がある（自分で鍵を開けて出ていくなど）
- 1 常時ついていなければならない
- 2 常時気を配らなければならない
- 3 時々声をかけなければならない
- 4 最初に指示を与える程度でよい
- 5 他の児童と大差はない

設問主旨：自由遊び場面での保育の困難性を評価する。

自力での移動が困難な場合は、危険性の程度で判断する。

日によって状況が異なる場合は、頻度の多い状況を選択し、その旨を記載する。

0 所外へ飛び出す危険がある（自分で鍵を開けて出ていくなど）

所外へ出ないような工夫をしても、自分で鍵を開ける、柵を乗り越えて出ていこうとする。

自力移動できない場合はこの項目は当てはまらない。頻度や状況について具体的に記載する。

1 常時ついていなければならない

他児に危害を加えるため、また反対に他児からの危害を加えられた場合などに自分で身を守ることができないため、自由遊び場面では、常時保育士が傍らに付き添っている。

具体的な状況や保育士が傍らに付き添う必要性について具体的に記載する。

2 常時気を配らなければならない

遊びなどの活動に興味がなく、目的もなくウロウロしている時間が大半で、いつも遊びに誘ったり、興味のあることを提示することが必要である。頻度や具体的な支援の状況を記載する。

3 時々声をかけなければならない

遊びが長続きせず、次々と興味が移ってしまい遊びこめないため、声をかけて遊びの幅を広げる必要がある。実際に行っている支援の頻度や内容を具体的に記載する。

4 最初に指示を与える程度でよい

自由遊びのスケジュールや注意について個別に指示を与えれば理解することができる。

他児の様子をみて動いたり、一緒に遊ぶことができる。

指示の内容や遊んでいる様子、他児よりも指示が必要な状況を具体的に記載する。

5 他の児童と大差はない

ほぼ他児と同じように活動できる。何らかの支援が必要な場合は具体的に記載する。

1・2歳児

食事

- 0 全面介助（自分で食べられない）
- 1 手づかみで食べる
- 2 コップで飲む
- 3 スプーンを持ち、すくって食べようとする
- 4 スプーンを使用して一人で食べる
- 5 はしを使用して一人で食べる

設問主旨：食事の自立程度と介助の必要性、手の巧緻性、手と口の協応運動を評価する。

0 全面介助（自分で食べられない）

手でつかむことはできても口へはもっていけない、食べものの認識がない、身体的に不自由な場合など、具体的な状況を記載する。

1 手づかみで食べる

手にもって食べることができる。こぼすことが多くても、食べようとしていればよい。
食べ物への興味やどのようなものを手づかみで食べるのかなど食事動作を具体的に記載する。

2 コップで飲む

大人が手を添えてコップから飲むことができればよい。
こぼすことが多かったり、むせたりして飲めない場合などは「できない」とし、その具体的な状況も記載する。

3 スプーンを持ち、すくって食べようとする

自分で食べようとして、スプーンですくって口にもっていこうとしていればよい。
スプーンの道具としての理解、使用の意欲に重点をおいており、確実にすくって食べられるかは問わない。道具を使うことへの理解や意欲、動作などを記載する。

4 スプーンを使用して一人で食べる

スプーンを使用し、食べられていればよい。持ち方は問わない。
すくうことはできるが、こぼすことが多く大半を介助している場合は「できない」とし、その具体的な状況も記載する。

5 はしを使用して一人で食べる

持ち方や使い方は問わない。ときどき手伝いを必要とする程度で食べられるようであればよい。
手伝いの程度や頻度を記載する。

1・2歳児

排泄

- 0 おむつを使用（でるのがわからない）
- 1 尿が出てしまってから知らせる（出たのはわかる）
- 2 便が出てしまってから知らせる
- 3 便が出る前に知らせる
- 4 尿が出る前に知らせる（個別の介助が必要）
- 5 失敗もあるが、促しや保育の流れでトイレに行くことができる（排尿時の介助不要）

設問主旨：日常生活の自立（排泄）の程度と介助の必要性を評価する。

0 おむつを使用（でるのがわからない）

おむつが濡れても特に気にすることなく遊んでいる、以前は、知らせていたが知らせなくなったりなど具体的な状況を記載する。

1 尿が出てしまってから知らせる（出たのはわかる）

方法は問わないが、不快な気持ちが伝えられる。確実に知らせなくてもよい。

自分から伝えるのではなく、保育士が尋ねて答える、出た時の様子からわかるなど具体的な状況や頻度を記載する。

2 便が出てしまってから知らせる

方法は問わないが、不快な気持ちが伝えられる。確実に知らせなくてもよい。

自分から伝えるのではなく、保育士が尋ねて答える、出た時の様子からわかるなど具体的な状況や頻度を記載する。

3 便が出る前に知らせる

言葉や動作などの方法は問わず、ほとんど教えるが、たまに失敗する程度。

自分から伝えるのではなく、保育士が尋ねて答えるなど具体的な状況を記載する。

4 尿が出る前に知らせる（個別の介助が必要）

ほとんど昼間は失敗なく知らせることができる。おむつ交換やトイレで排尿時に介助は必要。

自分から伝えるのではなく、保育士が尋ねて答えるなど具体的な状況を記載する。

5 失敗もあるが、促しや保育の流れでトイレに行くことができる（排尿時の介助不要）

促しや保育の流れでトイレに行き、排尿の後始末ができる。成功率50%以上。

間に合わない場合もあるが、自分でトイレに行くこともある。失敗の頻度や状況を具体的に記載する。

1・2歳児

着脱

- 0 すべて介助（着脱に抵抗する）
- 1 衣服を着るとき静かにしているが協力しない（着脱には抵抗しない）
- 2 衣服を着るとき手足を出して協力する（着脱協力的）
- 3 一人でパンツ・ズボンは脱げる
- 4 上着を脱ぐことができる
- 5 前後はわからないが服を着ようとする

設問主旨：日常生活の自立（着脱）の程度と介助の必要性を評価する。

- 0 すべて介助（着脱に抵抗する）

介助方法を具体的な状況を記載。

- 1 衣服を着るとき静かにしているが協力しない（着脱には抵抗しない）

してもらうのが当たり前で、自分からしようとする意欲はまだない状態。

具体的な状況を記載する。

- 2 衣服を着るとき手足を出して協力する（着脱協力的）

着替えることがわかつており、着脱しやすくなるように協力する。

帽子を一人でかぶる、洋服のスナップをはずすなど自分でできることができることがあれば具体的な状況を記載する。

どのような部分に介助を要するか、具体的な状況を記載する。

- 3 一人でパンツ・ズボンは脱げる

一人でできない場合は介助の程度を記載する。

- 4 上着を脱ぐことができる

ボタンやファスナーなどはできなくてもいいがジャンパーなどを自分で脱ぐことができる。

- 5 前後はわからないが服を着ようとする

一人で着ようとしていればよい。

1・2歳児

視覚

0 視覚に問題があるように思われる

1 見えている

設問主旨：発達障害等ではなく、視力の程度をみる。

眼鏡やコンタクトレンズの場合は装用した状態での視機能を記入する。

0 視覚に問題があるように思われる

保育上どのような介助が必要であるかを記載する。

医療機関への受診があれば、その結果を記載する。

1 見えている

視力に問題なし。

聴覚

0 聴こえに問題があるように思われる

1 聴こえている

設問主旨：認知等の問題ではなく、聴力の程度をみる。

補聴器を使用している場合は装用した状態での聴能を記入する。

0 聴こえに問題があるように思われる

保育上どのような介助が必要であるかを記載する。

医療機関への受診があれば、その結果を記載する。

1 聴こえている

聴力に問題なし。

1・2歳児

てんかん発作

- 0 常時おきる
- 1 月に4～5回
- 2 月に1～2回
- 3 年に5～6回
- 4 服薬により抑止
- 5 服薬の必要なし

設問主旨：てんかんの有無と発作の頻度や程度をみる。

0 常時おきる

小さな発作を含め、月に4～5回以上おきる。
どのような発作がどれくらいの頻度で起こるかを記載する。
医療機関への受診状況を記載する。

1 月に4～5回

小さな発作を含め、月に4～5回程度おきる。
どのような発作がどれくらいの頻度で起こるかを記載する。
医療機関への受診状況を記載する。

2 月に1～2回

小さな発作を含め、月に1～2回以上おきる。
どのような発作がどれくらいの頻度で起こるかを記載する。
医療機関への受診状況を記載する。

3 年に5～6回

小さな発作を含め、年に5～6回以上おきる。
どのような発作がどれくらいの頻度で起こるかを記載する。
医療機関への受診状況を記載する。

4 服薬により抑止

自宅、または保育園（所）にて服薬することで、発作が抑止されている。
医療機関への受診状況を記載する。

5 服薬の必要なし

てんかん発作を起こすことなく、服薬の必要もない。

3・4・5歳児

運動面 上肢

- 0 手が使えない
- 1 物をつまんで容器に入れる
- 2 なぐり書きをする
- 3 クレヨンで○が書ける（始点と末端がやや交差していてもよい）
- 4 折り紙を折ることができる（1回折り目をつけられる）
- 5 ハサミが使える（連続切りができる）

設問主旨：上肢の巧緻性（微細運動）や道具への興味、使用能力の発達状況を評価する。

0 手が使えない

上肢の麻痺や欠損などにより手が使えない。手の使用に興味がない。

使えない理由や状況について具体的に記載する。

1 物をつまんで容器にいれる

持ち方が挟み持ちになっていたり、2指以外（3指持ちなど）の場合やつまむことはできるが、容器に入れることができない場合は状況を具体的に記載する。

2 なぐり書きをする

筆記具（鉛筆、クレヨン、マジックなど）を紙に打ちつけるだけでなく、筆記具を紙の上に走らせて何かを描く。持ち方は問わない。描かない場合は、描けない状況を具体的に記載する。

例）筆記具が持てない・なぐり書きに興味がない・打ちつけてしまうなど

3 クレヨンで○が書ける（始点と末端がやや交差していてもよい）

ぐるぐると連続しないで、丸みをもった円を描ける。ひとつの円であれば、始点と末端がやや交差してもよい。描けない場合は、描画の状況や興味を具体的に記載する。

4 折り紙を折ることができる（一回折り目をつけられる）

折り紙を折って見せると同じように手アイロンで折り目をつけて折る。角と角が揃っていないでもよい。できる折り紙を具体的に記載する。

できないときや折り紙に興味がなく取り組めないときはその状況を記載する。紙を手のひらで押さえつけるなどして折り目をつける場合は「できない」とし、具体的状況を記載する。

例）四角を半分に折ることができる。飛行機を折ることができるなど

5 ハサミが使える（連続切りができる）

ハサミで紙などが連続して切れる。1つの形を切り抜けなくてもよい。

できないときは具体的状況を記載する。

3・4・5歳児

運動面 下肢

- 0 歩けない
- 1 一人で歩ける
- 2 一人で走れる
- 3 両足で跳ぶ（両足が揃っていないなくてもよい）
- 4 ケンケンができる（片足連続3回以上）
- 5 スキップができる

設問主旨：移動能力や体のバランスなど下肢の粗大運動の発達状況を評価する。

装具などを装着している場合は、装着している状態で判断する。

0 歩けない

できない原因や理由、状況について具体的に記載する。

例) 立位保持の有無や立位での移動状況（つかまり立ち・つたい歩き・支え歩き（両手・片手）
一人立ち・一人で2、3歩は前進しているなど）

1 一人で歩ける

一人で続けて歩ける。室内、戸外（靴の有無）は問わない。

数歩ですぐ休み、歩き続けられない場合やすぐに転倒してしまう場合は「できない」とし、

具体的な状況を記載する。O 脚など歩容に問題があり受診している場合や装具を付けている場合も
具体的な状況を記載する。

2 一人で走れる

足元がかなりしっかりと、走ることができれば「できる」とする。速度が遅くてもよい。

できない場合は具体的な状況を記載する。

3 両足で跳ぶ（両足が揃っていないなくてもよい）

その場で両足で跳ぶことができる。このとき、足がそろわなかつたり、少しどちらかの足が遅れ
ていてもよい。できない場合は、状況を具体的に記載する。

4 ケンケンができる（片足連続3回以上）

片足立ちで3回以上跳ぶことができる。どちらかの足でできればよい。

1、2回で両足がついてしまう場合は「できない」とし、状況を具体的に記載する。

5 スキップができる

体のバランスを取りながら、リズミカルにスキップができる。

上手にできないときは、状況を具体的に記載する。

3・4・5歳児

言語

- 0 話せない（言葉の理解も悪い）
- 1 話せないが相手の言う事はわかる
- 2 単語のみ（3語以上）
- 3 二語文で話す（「おうち、かえる」「ワンワン、来た」など）
- 4 三語文で話すが助詞、接続詞がまだ使えない
- 5 助詞も入れて文章で話し、会話のキャッチボールができる

設問主旨：理解の程度、言語によるコミュニケーション能力の発達を評価する。

0 話せない（言葉の理解も悪い）

声を発することはあるが、言葉の理解も悪い。

1 話せないが相手の言う事はわかる

理解は悪くないが、話せない。

「オウム返し」は不可。

「～もっていらっしゃい」「～にあげなさい」などの簡単ないいつけを理解し
言われた通りにできるなど、理解の程度を具体的に記載する。

2 単語のみ（3語以上）

具体的なものと対応した語が3語以上出ている。

3 二語文で話す（「おうち、かえる」「ワンワン、来た」など）

一語文の段階を過ぎて、単語を2つつなげて話す。

理解が悪い、パターンでしか話さない、発音不明瞭、独特な話し方をするなど、
具体的状況を記載する。

4 三語文で話すが助詞、接続詞がまだ使えない

簡単な質問に応じたり、会話ができる。

一方的に話す、発音不明瞭、特徴のある話し方をするなどの場合、具体的状況を記載する。

5 助詞も入れて文章で話し、会話のキャッチボールができる

助詞も入れて会話ができる。

一方的に話し、やりとりにならない場合は「できない」とし、具体的状況を記載する。

3・4・5歳児

自己統制

- 0 全く指示に従えず、目が離せない
- 1 指示を与えてもほとんどできない
- 2 繰り返し指示を与えても、出来るときと出来ないときがある
- 3 繰り返し指示を与えると、指示どおりできる
- 4 少しの補足だけで指示どおりほぼできる
- 5 指示どおり行動できる

設問主旨：指示を理解し、従う事ができるかを評価する。

児に応じた指示の与え方（絵カードや指差し、言語指示など）を行ったうえでの理解度や行動で判断する。

未歩行などで自力移動のできない場合は、指示の理解程度により判断する。

0 全く指示に従えず、目が離せない

児に応じた伝え方をしても指示が入らず、危険なことをしたり、保育室から出て行ってしまうなど、集団保育が困難で、常時保育士がついていなければならない具体的な状況を記載する。

1 指示を与えてもほとんどできない

伝え方を工夫しても、指示が理解できずにほとんど行動できない、こだわりがあるなど具体的な状況を記載する。

2 繰り返し指示を与えても、出来るときと出来ないときがある

1つの指示を出して、それに従うことができればよい。
伝え方を工夫し、繰り返し指示を与えても行動出来たり出来なかつたりする。
切り替えに時間がかかる、最後まで出来ないなど、具体的な状況を記載する。

3 繰り返し指示を与えると、指示どおりできる

1つの指示を出して、それに従うことができればよい。
伝え方を工夫し、繰り返し指示を与えると指示どおりできる。

4 少しの補足だけで指示どおりほぼできる

集団での指示の後に、少し個別に指示することで、ほぼ指示どおりできる。
他児を見て、自分で動くことができる、自信がなくてできない場合などは具体的な状況を記載。

5 指示どおり行動できる

指示を出すとその通りに行動できる。
集団での指示に従うことができる。

3・4・5歳児

設定保育・行事場面

- 0 人や物への関心がなく、部屋から出て行く
- 1 人への関心はないが物への関心を示すので他児のじやまをする。部屋から出て行くことが多い
- 2 人への関心はあまりないが部屋の中にはいる
- 3 人や物への関心はあるが、指示の理解ができず行動を共にするなど個別対応が必要
- 4 集団での指示が理解できず、言語での一対一の対応が必要
- 5 他の児童と大差はない

設問主旨：集団保育での行動および対人関係の発達状況、保育における困難性を評価する。

自力での移動が困難な場合は、他者への関心や指示の理解状況で判断する。

日によって状況が異なる場合は、頻度の多い状況を選択し、その旨を記載する。

0 人や物への関心がなく、部屋から出て行く

大人、子どもに関心がなく、遊びの内容や玩具などにも興味を示すことがない。いつでも部屋の外にでてしまう。関心の状況や部屋から出していく頻度など具体的な状況を記載する。

1 人への関心はないが物への関心を示すので他児のじやまをする。部屋から出て行くことが多い

人への関心がまったくなく、一緒に行動することを意識していないが、持っているものには興味を示し、取り上げようとするなど他児のじやまをする。働きかけをしても、頻回に保育室から出て行ってしまう。具体的な状況や頻度、働きかけの内容などを記載する。

2 人への関心はあまりないが部屋の中にはいる

人に関心をあまり示さないものの、働きかけをすれば部屋の中にいることができる。具体的な状況や働きかけの内容などを記載する。

3 人や物への関心はあるが、指示の理解ができず行動を共にするなど個別対応が必要

言語の指示のみでは理解できないため、大人が1対1で一緒にすることが必要である。指示内容やどの程度一緒にすることでできるかを具体的に記載する。

4 集団での指示が理解できず、言語での一対一の対応が必要

一対一であれば言語での指示を理解できる。指示内容やどの程度の言語指示ができるかを具体的に記載する。

5 他の児童と大差はない

集団の指示でほぼ活動できる。何らかの支援が必要な場合は具体的に記載する。

3・4・5歳児

自由遊び場面

- 0 所外へ飛び出す危険がある（自分で鍵を開けて出ていくなど）
- 1 常時ついていなければならない
- 2 常時気を配らなければならない
- 3 時々声をかけなければならない
- 4 最初に指示を与える程度でよい
- 5 他の児童と大差はない

設問主旨：自由遊び場面での保育の困難性を評価する。

自力での移動が困難な場合は、危険性の程度で判断する。

日によって状況が異なる場合は、頻度の多い状況を選択し、その旨を記載する。

0 所外へ飛び出す危険がある（自分で鍵を開けて出ていくなど）

所外へ出ないような工夫をしていても、自分で鍵を開ける、柵を乗り越えて出ていこうとする。
自力移動できない場合はこの項目は当てはまらない。頻度や状況について具体的に記載する。

1 常時ついていなければならない

他児に危害を加えるため、また反対に他児からの危害を加えられた場合などに自分で身を守ることができないため、自由遊び場面では、常時保育士が傍らに付き添っている。
具体的な状況や保育士が傍らに付き添う必要性について具体的に記載する。

2 常時気を配らなければならない

遊びなどの活動に興味がなく、目的もなくウロウロしている時間が大半であるため、いつも遊びに誘ったり、児の興味のあることを提示することが必要である。
頻度や具体的な支援の状況を記載する。

3 時々声をかけなければならない

遊びが長続きせず、次々と興味が移ってしまい遊びこめないため、声をかけて遊びの幅を広げる必要がある。実際に行っている支援の頻度や内容を具体的に記載する。

4 最初に指示を与える程度でよい

自由遊びのスケジュールや注意について個別に指示を与えれば理解することができる。
他児の様子をみて動いたり、一緒に遊ぶことができる。
指示の内容や遊んでいる様子、他児よりも指示の必要な状況を具体的に記載する。

5 他の児童と大差はない

ほぼ他児と同じように活動できる。何らかの支援が必要な場合は具体的に記載する。

3・4・5歳児

食事

- 0 全面介助（自分で食べられない）
- 1 コップで飲む（はし、スプーンは使えない）
- 2 スプーンを使用して食べる（よくこぼす）
- 3 スプーンを使用して食べる（おおむね一人で食べる）
- 4 スプーンかはしを使用して一人で食べる
- 5 はしを使用して一人で食べる

設問主旨：日常生活の自立（食事）の程度と介助の必要性をみる。

上肢（特に手指）の機能をみる。

0 全面介助（自分で食べられない）

1 コップで飲む（はし、スプーンは使えない）

コップを使って自分で飲むことができる。

あまりに多くこぼす場合は「できない」とする。

2 スプーンを使用して食べる（よくこぼす）

スプーンを使って自分で食べられるがこぼすため、側で介助を要する。

スプーンの持ち方は問わない。

あまりに多くこぼし、食べられていない場合は「できない」とする。

3 スプーンを使用して食べる（おおむね一人で食べる）

あまりこぼさず、一対一の介助を必要としない。

スプーンの持ち方は問わない。

4 スプーンかはしを使用して一人で食べる

介助がなくても一人で食事ができる。使用する道具の種類や持ち方は問わない。

途中で遊び食べ、手づかみになるなど具体的な状況を記載する。

5 はしを使用して一人で食べる

はしを使って食べることができ、一人で食べ終わることができる。

はしは正しい持ち方でなくてもかまわない。

3・4・5歳児

排泄

- 0 おむつを使用（出るのがわからない）
- 1 出てしまってから知らせる（出たのはわかる）
- 2 便意や尿意を知らせる（出る前にわかる）
- 3 自分でトイレにいくが、大便（または小便）の後始末ができない
- 4 大小便とも自立しているが、時々失敗する（だいたい自立）
- 5 大小便とも自立している（完全自立）

設問主旨 日常生活の自立（排泄）の程度と介助の必要性をみる

0 おむつを使用（出るのがわからない）

おむつが濡れても気にせず遊んでいる。

1 出てしまってから知らせる（出たのはわかる）

尿や便が出てから知らせる。

自分から伝えるのではなく、保育士が尋ねて答える、出たのはわかっているが知らせないなど具体的な状況や頻度を記載する。

2 便意や尿意を知らせる（出る前にわかる）

出る前に知らせるが、一人ではトイレに行けずに、保育士の付添いが必要である。

自分から伝えるのではなく、保育士が尋ねて答える、出る前にわかっているようであるが知らせない、定時排尿で行き失敗はないなど具体的な状況や失敗する場合は頻度を記載する。

3 自分でトイレにいくが、大便（または小便）の後始末ができない

自分のタイミングでトイレに行き、用を足すことができるが、便（または小便）の後始末ができない、または不完全で介助が必要な場合。介助の内容などを具体的に記載する。

4 大小便とも自立しているが、時々失敗する（だいたい自立）

ほとんど自立しているが、遊びに夢中になっている、午睡中の失敗があるなど、失敗の状況や頻度を具体的に記載する。

5 大小便とも自立している（完全自立）

自分でトイレに行き、保育士の介助を必要としない。

3・4・5歳児

着脱

- 0 すべて介助（着脱に抵抗する）
- 1 衣類を着るとき静かにしているが協力しない（着脱には抵抗しない）
- 2 衣類を着るとき手足を出して協力する（着脱協力的）
- 3 一人で脱げるが着ることはできない（自分でしようとする）
- 4 できるときと、できないときがある（自分でするが前後がわからない）
- 5 着脱自由（問題なし）

設問主旨：日常生活の自立（着脱）の程度と介助の必要性を評価する。

身体機能を見る。

0 すべて介助（着脱に抵抗する）

ウロウロしてしまい、着替えさせようとしないなど、具体的な状況を記載する。

1 衣類を着るとき静かにしているが協力しない（着脱には抵抗しない）

してもらうのが当たり前で、自分からしようとする意欲がない状態である。

具体的な状況を記載する。

2 衣類を着るとき手足を出して協力する（着脱協力的）

着替えることがわかつており、着脱しやすくなるように協力する。

帽子を一人でかぶる、洋服のスナップをはずすなど自分でできることがあれば具体的な状況を記載する。どのような部分に介助を要するかなどの具体的な状況を記載する。

3 一人で脱げるが着ることはできない（自分でしようとする）

自分で着ようとする意欲が出てきているが介助が必要な段階である。

自分で着ようとする具体的な状況があれば記載する。

4 できるときと、できないときがある（自分でするが前後がわからない）

自分で着脱するが、前後が間違っていることが多い。

どのような場合にできて、どのような場合にできないのかを具体的に記載する。

5 着脱自由（問題なし）

自分で着脱でき、保育士の介助を必要としない。

3・4・5歳児

視覚

- 0 全く見えない
- 1 明るい方に顔を向ける
- 2 顔前 20 cm位で手の動きがわかる
- 3 顔前 20 cm位で指の数がわかる
- 4 2 mくらい離れたところで人の区別ができる
- 5 普通に見える

設問主旨：発達障害等によるものではなく、視機能の程度をみる。

眼鏡やコンタクトレンズの場合は装用した状態での視機能を記入する。

0 全く見えない

1 明るい方に顔を向ける

窓の方に顔を向けるなど、具体的な状況を記載する。

2 顔前 20 cm位で手の動きがわかる

顔前から約 20 cm離れたところから手を動かすと、それに何らかの反応を示す。

3 顔前 20 cm位で指の数がわかる

顔前から約 20 cm離れたところから指で示した数がわかる。

4 2 mくらい離れたところで人の区別ができる

迎えに来た保護者や近づいてきた保育士に気づいて何らかの反応を示す。

5 普通に見える

視力に問題なし。

3・4・5歳児

聴覚

- 0 耳元で大きな声で話しても聴こえない
- 1 大きな声がやっと聴きとれる
- 2 普通の声がやっと聴きとれる
- 3 普通の声の会話は聴きとれるが、小さい声は聴きとれない
- 4 小さい声が聴こえたり聴きとれなかつたりする
- 5 普通に聴こえる

設問主旨：認知等の問題ではなく、聴能の程度をみる。

補聴器を使用している場合は装用した状態での聴能を記入する。

0 耳元で大きな声で話しても聴こえない

耳元で名前を呼んでも全く反応がない。

1 大きな声がやっと聴きとれる

近くで大きな声で話すと何らかの反応を示す。

どのような場面であれば聴きとれるのか、具体的な状況を記載する。

2 普通の声がやっと聴きとれる

普通に話している声に反応する。

3 普通の声の会話は聴きとれるが、小さい声は聴きとれない

何かに夢中になっているときに呼びかけても反応がないのとは異なる。

4 小さい声が聴こえたり聴きとれなかつたりする

夢中になっていると気づきにくい場合もあるが、保育士から普段の様子も聴取しながら判断する。

5 普通に聴こえる

聴こえに問題なし。

3・4・5歳児

てんかん発作

- 0 常時おきる
- 1 月に4～5回
- 2 月に1～2回
- 3 年に5～6回
- 4 服薬により抑止
- 5 服薬の必要なし

設問主旨：てんかんの有無と発作の頻度や程度をみる。

0 常時おきる

小さな発作を含め、月に4～5回以上おきる。

どのような発作がどれくらいの頻度で起こるかを記載する。

医療機関への受診状況を記載する。

1 月に4～5回

小さな発作を含め、月に4～5回程度おきる。

どのような発作がどれくらいの頻度で起こるかを記載する。

医療機関への受診状況を記載する。

2 月に1～2回

小さな発作を含め、月に1～2回以上おきる。

どのような発作がどれくらいの頻度で起こるかを記載する。

医療機関への受診状況を記載する。

3 年に5～6回

小さな発作を含め、年に5～6回以上おきる。

どのような発作がどれくらいの頻度で起こるかを記載する。

医療機関への受診状況を記載する。

4 服薬により抑止

自宅、または保育園（所）にて服薬することで、発作が抑止されている。

医療機関への受診状況を記載する。

5 服薬の必要なし

てんかん発作を起こすことはなく、服薬の必要もない。